

令和7年1月13日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

春の彼岸法要ご案内

大寒の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

浄土真宗では、聞法を第一とします。み教えを聞くということが最も大切とされ、聞法の道場としての本堂があります。是非、お聴聞の座にお誘いあわせの上、お参りください。

どこにいても阿弥陀様に照らされ、よびかけられ、支えられているという「おかげさま」をいただき、報謝の念仏を門信徒の皆さまとともに、よろこびたいものです。

尚、感染症対策として、参拝の際はマスク・手指消毒を推奨します。宜しくお願い致します。

記

1.と き	令和7年3月22日（土）午後1時から
2.おつとめ	仏説阿弥陀経
3.ご講師	葦原 理江 先生（葦北 覚応寺）
	古典的な高座での珍しいご法話です。
	京都からお出でくださいます。

◇ “月のことば”を配布します。

◇ 法要前の掃除・準備を法要当日 3月22日 8時より行います。お手伝い頂ける方は よろしくお願ひします。お聴聞させて頂くみなでご法要を作りましょう。

◇ 世話人（布令人）の方、この一年布令ごとなどご苦労さまでした。5月予定の門信徒会の総会まで、現世話人の任期ですのでよろしくお願ひします。

尚、次年度の世話人の人選方を各班ともよろしくお願ひします。

◇ 門信徒会費 令和6年度分未納者の方は、3月中に納金をよろしくお願ひします。

予告：4月は会計整理、監査、役員会、門信徒総会の月ですが、現時点で予定立案できていません。決まり次第、関係者にご連絡、ご依頼申し上げます。その折には、よろしくお願ひいたします。

伝道 現代文「歎異抄」に学ぶ親鸞の教え 田中教照 から抜粋

私たちの日常にいろいろな結果として出てくるものの原因として業ということが仏教では説かれますね。業は、業因といわれるように、もろもろの悩みの原因となるものです。縁は業のきっかけとなるもので、業より広い関係性です。そういう縁によって私たちの人生は動かされ、社会も動かされています。

私たちの迷いの行いというのは、「惑」から「業」、「業」から「苦」というように展開して、苦しみ悩みをもたらす、といわれます。業の根本には「惑」があるのです。「惑」というのは「煩惱」のことです。

私たちは心の中にある煩惱が縁に触れて、私たちを動かして業となり、その業が原因となって苦しみの世界を作り上げていくのです。これが「惑」、「業」、「苦」という一連の迷いの連鎖です。

この迷いの連鎖に、ひとつのきっかけを与えていくものとして、「縁」というものがあるのです。この縁は、我々の期待とか、予測を超えたものです。この世の中が動いている限りは、いろいろなきっかけ、すなわち縁がはたらいています。そういう人間の能力を超えた縁が惑に動きを与えて、私たちの人生を動かしたり、私たちの社会を動かしているのです。

行いの原因である惑は、自分のものですが、そのきっかけとなる縁は自分以外の人でもあるかも知れないし、予想もつかない出来事である場合もあります。他の人の業が間接的に縁となって私たちの業を引き起こす場合もありますので、そういういろいろなものをひっくるめて「縁」といいます。この縁が悪かったら、世の中が滅んでいたり、人類も滅んでいるはずですが、案外と世の中がうまく存続しているという意味では、この縁も結構うまく作用している、ということがいえます。

だから、それなりに社会というものは縁によってうまく調整をしながら、存続しているのではないかと、とも思えます。私たちの都合をいえば、いろいろな問題がありますけれども、全体として宇宙の動きを考えれば、この宇宙さえも縁によってうまくいっているのではないかと、思えます。

それで、この世では、縁というものがうまく作用しているということで、仏教では、「縁」に気づけよというのです。

